

鹿児島試験地

公益財団法人日本植物調節剤研究協会
鹿児島試験地 主任
四藏 文夫

1. これまで

鹿児島県の植調試験地は、1982年に鹿児島試験地（1989年からは鹿児島第二試験地に名称変更）、1989年に鹿児島第一試験地、2008年に鹿児島大隅試験地が開設され、高田仁さん、湯田保彦さん、加治屋伸章さん、露重美義さんが主任を務められてきた。

2. 現在

現在の鹿児島試験地は、2014年に、鹿児島第一試験地、第二試験地が廃止された後、鹿児島県南さつま市金峰町にある鹿児島県農業開発総合センターのシラス水田（40a）を借りて、福井清美さんが試験を開始した。事務所も農業開発総合センター敷地内にある（図-1）。福井さんは2023年までの10年間、主任を務め、鹿児島試験地での業務を軌道に乗せた後、2024年4月～12月の期間で業務を引き継ぎ退職された。所有機械・装置は、トラクタ1台、軽トラ1台、通風乾燥機2台、冷蔵庫2台、坪刈脱穀機1台等の必要最小限である。

3. 業務概況

水稻除草剤適2試験が主要業務で、早期水稻では主に特殊雑草コウキヤガラを対象とした試験、普通期水稻で一般草種を対象とした試験を実施している。



図-1 事務所（鹿児島県農業開発総合センターの敷地内）

耕耘、堆肥・肥料施用、箱施肥、水管理、除草等は自力で実施し、育苗、代かき、田植え、病害虫本田防除、機械収穫等は、農業公社や個人へ委託している。試験区設置、水稻生育調査、試験区撤去等、人手を必要とする作業は、平日ではなく土曜日になるように予定を組み、ベテランのパートスタッフや農業大学の学生等をその都度募集している。

4. 試験の流れ

(1) 試験枠作成

2月～3月に実施。コウキヤガラ対象試験用に1.5m×1.5m枠、一般草種対象試験用に2.0m×1.8m枠を作成する。

(2) 田植え

田植えは農業公社に委託しているが、毎年同じオペレーターにお願いし、8条田植機を用いて圃場設計に基づいて植え付けない条を設け、コウキヤガラ対象試験は5条植え、一般草種対象試験は6条植えとして、試験区枠外スペースを確保している。

(3) 通路設置

2m間隔で並べたコンテナの上にアルミ足場板を乗せて通路とする。

(4) 試験枠設置

事前に作成した試験枠を、イレクター型枠にあわせて4人一組で設置する。

(5) 多年生雑草埋込

その後、一般草種対象試験では、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリの4草種を1区3個体ずつ埋め込む。

(6) 水稻生育調査

最高分けつ期の生育調査は、パートスタッフの協力のもと実施している。

(7) 雑草調査

無除草区以外は残草が少ないので、抜き取り自体は自力で実施可能である。抜き取り後の雑草の洗浄・分別・計数は、パートスタッフの協力のもと実施している。

(8) 水稻収量調査

収量への影響が懸念される区は多くないので、自力で実施できている。



図-2 大汝牟遲神社参道の千本楠



図-3 妙見神社の巨石群



図-4 試験地から望む金峰山

(9) 機械収穫前作業

通路・試験枠を撤去する。圃場条件に関わらず大変な作業であるが、体力のある農大生の協力のもと実施している。試験枠は1年限りの使い捨てとしており再利用することはない。

5. 雑草養成

(1) コウキヤガラ対象試験

試験区画とは別に全面でコウキヤガラを養成する養成区画を確保し、前年の養成区画を当年の試験区画としていた年もあった。近年は試験区数が多くなり全面養成区画は確保できていない。

2024年の作付耕耘前のコウキヤガラ発生程度は、2023年の通路・試験区裏側等の試験枠外にあたる位置では多かったものの試験枠位置では少なく、試験枠内における発生量不足が懸念された。そこで2024年の試験では、前年の試験枠外が試験枠中央となるように試験枠を配置した結果、試験枠内に適度な発生本数を確保できた。

2025年の試験でも、前年の試験枠外が試験枠中央となるように配置したが、前年の試験枠外での養成が不十分であったため、発生の少ない区が生じてしまい苦勞した。

2025年の試験期間中に試験枠外で積極的にコウキヤガラを養成した結果、2026年は試験に支障のない発生状況で経過している。

(2) 一般草種対象試験

試験枠外の雑草発生を管理し、コウキヤガラ対象試験と同様に試験枠配置を年ごとにずらしている。近年、コナギの発生本数が増加し、ホタルイは減少するなど、草種ごとの発生本数のバランスが悪くなっていることから、コナギは極力抜き取り、ホタルイはできるだけ残し、ノビエは一定量を残すようにしている。

(3) 一般草種対象試験（埋込草種）

ウリカワとミズガヤツリは普通期水田の圃場端で、ヒルムシロとセリはプラ舟で養成している。

6. その他

黒ボク土壌における試験数確保のため、2025年から鹿児島試験地でも土壌残留試験を開始した。作物残留試験と違い、作物栽培の必要がないので、労力的に負担が小さい。2026年以降も継続実施予定である。

7. 試験地周辺の見所

(1) 大汝牟遲神社参道の千本楠 (図-2)

鹿児島市方面から吹上を経由して鹿児島試験地へ向かう際に、国道270号線を鹿児島試験地方向（南さつま方向）とは逆方向（いちき串木野方向）へ少し進むとある。一度見る価値はある。

(2) 妙見神社の巨石群 (図-3)

吹上から鹿児島試験地へ向かう途中にある。すべらない落ちない岩の他、複数の巨石が並ぶ。

(3) 金峰山 (図-4)

九州百名山の1つで試験地から東方向に見える、東京スカイツリーよりわずかに高い標高636mの本岳と東岳・北岳からなる山。山頂近くの駐車場まで車で登ることができ、そこから頂上まではすぐ。かつてはマラソン大会、近年はウォーキング大会等の登山イベントが開催されている。

8. 最後に

2026年現在の常勤職員数は1人であるが、鹿児島県農業開発総合センター職員をはじめとして、数多くの方々のご協力をいただいているので、業務ができています。今後ともよろしく申し上げます。